

11月21日から個人型DC(iDeCo/イデコ)の事前受付開始!
iDeCoとの使い分けが期待されるNISAの最新投資動向
～既存投資家はREIT、NISA向けファンドとネット証券はグローバル株や
アロケーションファンド、ネット証券積立は日本株やグローバル株ファンド～

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

11月21日からiDeCoの事前受付開始! iDeCoとの使い分けが期待されるのがNISA

来年初2017年1月1日より大幅に対象者が拡大される個人型確定拠出年金(個人型DC、愛称:iDeCo/イデコ～後述※1参照)だが、今年11月21日(月)から事前受付が開始される(詳細は後述URL[参考ホームページ])。

iDeCoに関する関心が高まる中、NISAとの使い分けが期待されている。「税制優遇の大きいイデコやNISAには期待リターンの大きい株で運用する投信を優先的に割り当てる方が、税制優遇を大きく受けられるので合理的だ。…(略)…。日本株でコストが最も低いのは上場投資信託(ETF)だが、イデコはETFは対象外なので、日本株のETFはNISAを使う。」(2016年11月3日付日経電子版～URLは後述[参考ホームページ])という感じである。

使い分けについては米英での例を参考に当コラムで古くから解説している。詳しくは2013年6月10日付日本版ISAの道その15「日本版ISAと日本版401kと日本版IRAの使い分け～英国ISAと米国IRA(トラディショナルIRAとロスIRA)の融合～」を参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

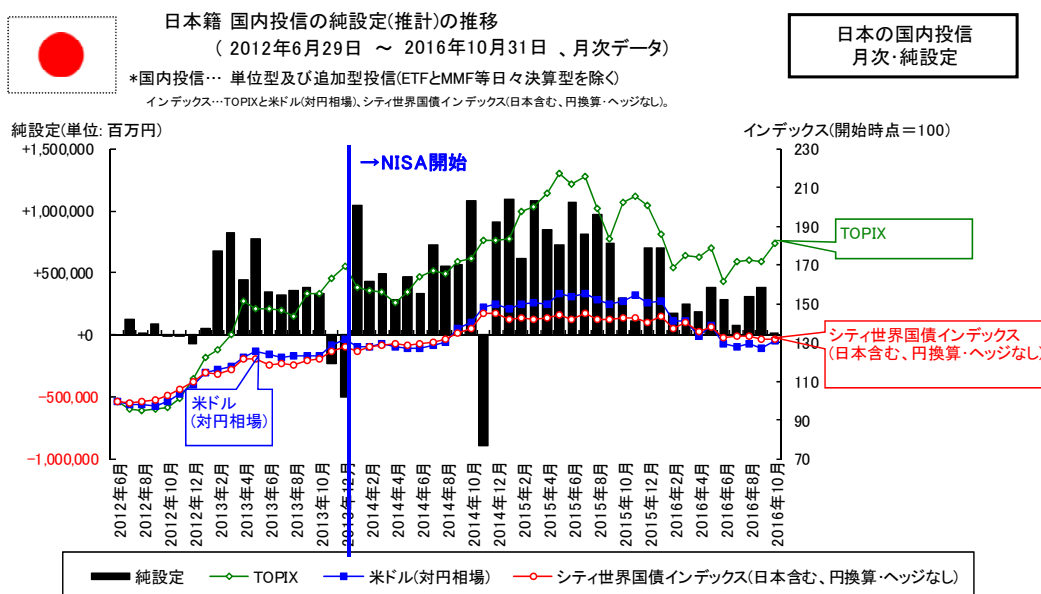
※1:iDeCo(イデコ)…個人型確定拠出年金の愛称として2016年9月16日に確定拠出年金普及・推進協議会が決定した。individual-type Defined Contribution pension planの一部から構成。



11月1日にはロゴマークも発表された。詳細は国民年金基金連合会HP参照(URLは後述[参考ホームページ])。

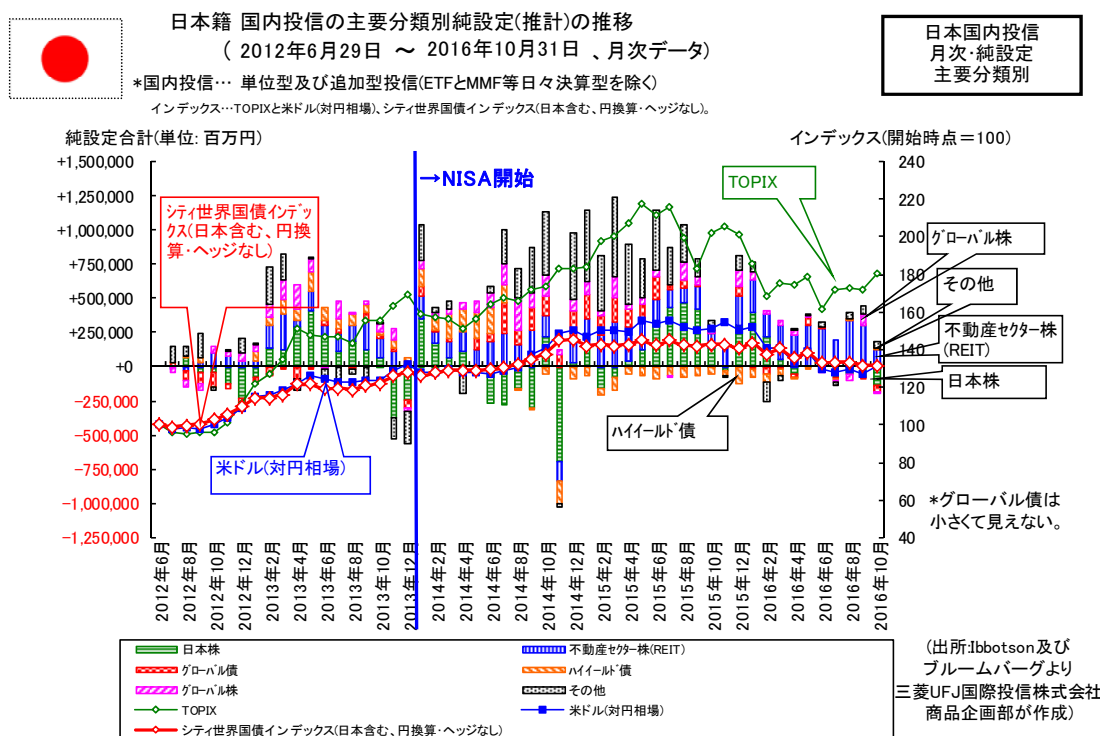
NISAの最新動向～既存投資家のREIT人気は継続～

個人型DC(iDeCo/イデコ)と使い分けられる可能性のあるNISAの最新動向を見る。投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替、投資の未経験者層(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※2参照)で代替する。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

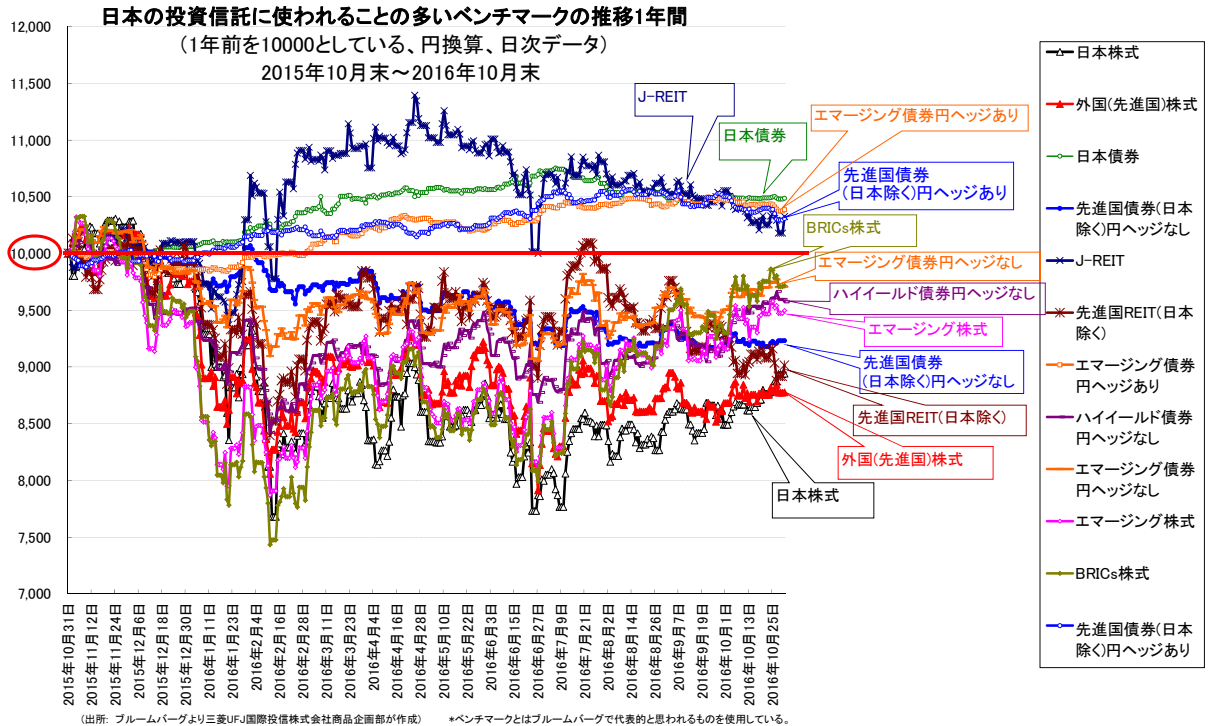
まず既存投資家を示す投信全体の純設定は2016年10月に+63億円と前月9月の+3819億円を大幅に下回り、2014年11月以来の小さかった(*2014年11月純設定は-8920億円と11カ月ぶりの資金純流出)。投資対象(主要分類)別で見る。2016年10月に最も純設定の大きかったのは、前月に引き続き不動産セクター株(REIT)で、次いでアジア株(除く日本)、その他株、アセットアロケーション慎重型だった(下記グラフ参照 *主要分類…モーニングスター分類で2015年12月末の純資産の大きい上位5分類。アセットアロケーション、アジア株及びその他株は「その他」に含まれる)。



不動産セクター株(REIT)は10月の純設定額が+1363億円と、前月9月の+3020億円を下回るものの、2016年3月から8カ月連続で純設定額1位だ。2016年は投信全体が低調の中、不動産セクター株(REIT)は2016年10月までで既に+2.4兆円と前年(2015年1~12月に+2.3兆円)を超える純流入となっている。「日本では昔から『堅実な投資先』として不動産の人気は高かったが、マイナス金利時代に突入し、利回り確保を狙う個人マネーが殺到した。」(2016年9月24日付日本経済新聞電子版~URLは後述[参考ホームページ])とされている様に、年始から大きな純流入が続いている。

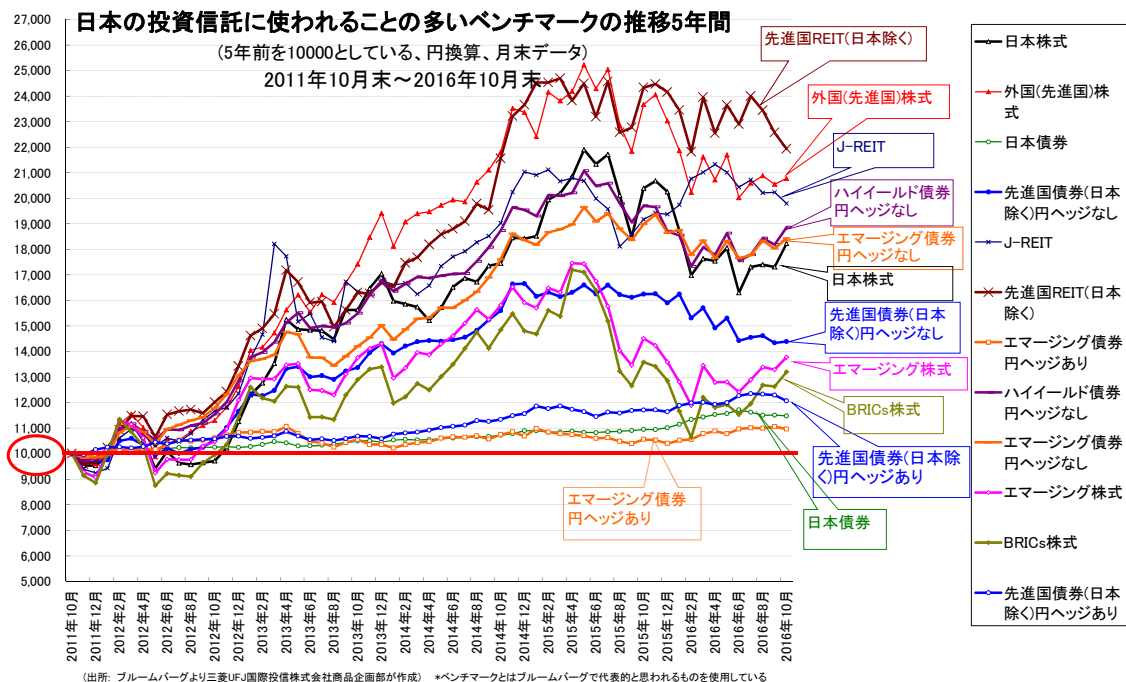
一方、日本株は10月に-1242億円と、9月の-680億円を上回り、4カ月連続の純流出となった。日本株は、前年2015年(1~12月)に+2.2兆円弱の純流入(全35分類中2位)となり、2016年も初めまでは好調な純流入だったが、7月から4カ月連続で大きな純流出が続き、2016年(1~10月)の純設定額は+3464億円となっている。

日本の投信の純設定とパフォーマンスの関係はどうだろうか? 投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、次頁のグラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、国内債券、エマージング債円ヘッジあり、J-REIT、先進国債(日本除く)円ヘッジあり、となっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。J-REITのパフォーマンスは1年で見れば3番目に良いが、2016年4月末からの半年間で見ると、次頁のグラフで最低となるので(下から2番目が先進国債券円ヘッジなし、下から3番目が先進国REIT)、今後の人気に影響を与える可能性はある。



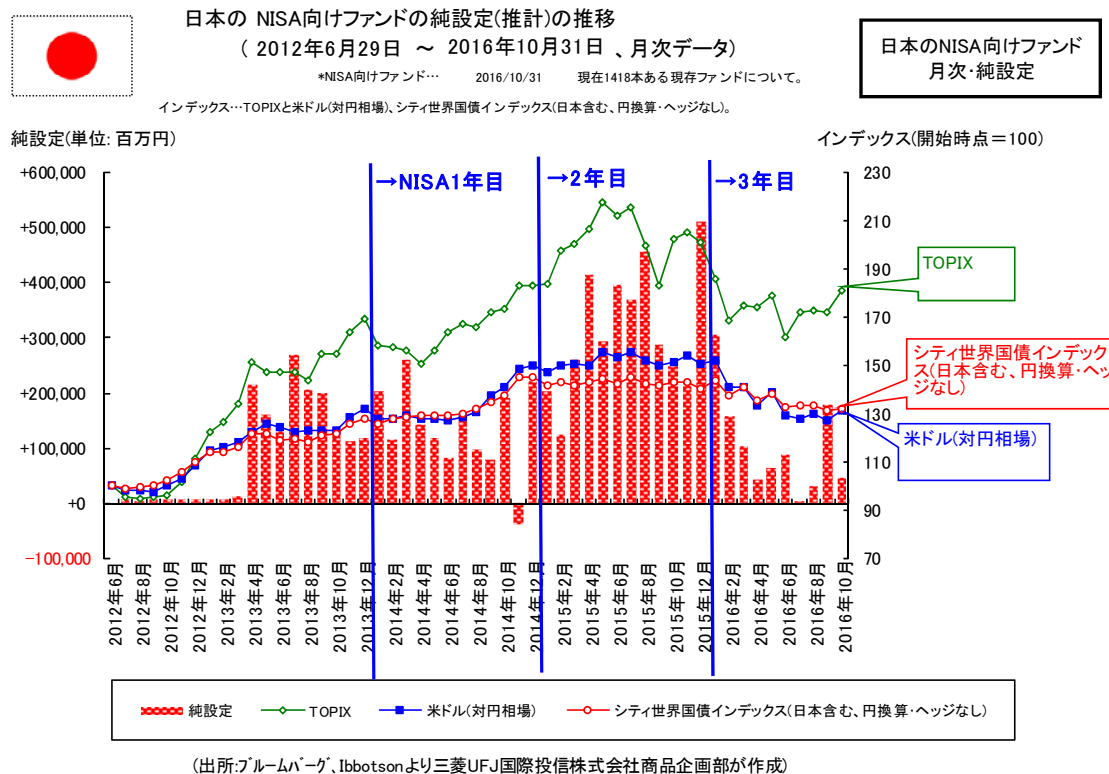
下記のグラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国 REIT、先進国株式、J-REIT、ハイイールド債円ヘッジなし、エマージング債円ヘッジなし、日本株式、先進国債円ヘッジなし、となっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。

先進国 REIT のパフォーマンスは3年、5年で見れば良いが、2016年7月末からの3カ月間で見ると、下記グラフのベンチマークで最低となるので(下から2番目がJ-REITで、下から3番目が先進国債円ヘッジなし)、今後の人気に影響を与える可能性はある。



NISA 向けファンドの人気はグローバル株やアセットアロケーションなど

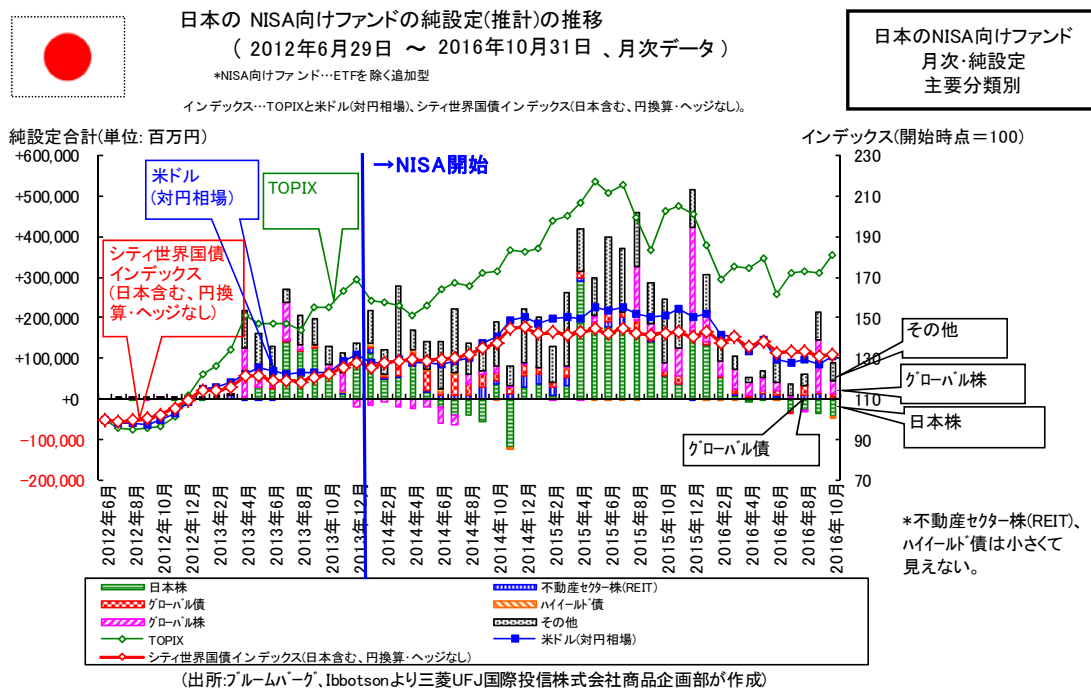
次に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。 下記グラフの通り、最新 2016 年 10 月は+441 億円と前月 9 月の+1765 億円を下回り 3 ヶ月ぶりに減少、8 月(+289 億円)以来の水準となった。



※2: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2016 年 10 月 31 日時点で 1418 本となった。

この新規投資家と思われる投信の 10 月純設定を投資対象(主要分類)別に見る。 前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いると、10 月の純流入 1 位はグローバル株(9 月 1 位)、2 位はアセットアロケーション柔軟型(同 2 位)、3 位はアセットアロケーション積極型(同 4 位)、4 位はロング・ショート(同 24 位)、5 位はグローバル債 (同 11 位)となっている(アセットアロケーション、ロング・ショートは次頁グラフで「その他」に含まれる)。

前月に引き続き最も純設定の大きかったグローバル株と 2 位のアセットアロケーション柔軟型は、新規設定された一部ファンドによる所もあるが、年初来の純設定額でもそれぞれ 1・2 位となっており、2015 年(1~12 月)年間では同 3・2 位となるなど、継続して資金純流入となっている。 一方、日本株は、2015 年に純設定最大で、2016 年 1 月頃まで全体の半分を占めていたが、10 月は-433 億円と、既存投資家と同様、4 カ月連続の純流出となった。



ネット証券での人気はグローバル株・日本株

最後に、各証券会社の集計結果を見る。2016年11月4日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新2016年10月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・5位はグローバル株ファンド、2位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・4位は日本株ファンドとなっている(1・4・5位はインデックスファンド)。前月9月は、1位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・5位はグローバル株ファンド、3・4位は日本株ファンドだった(2・4・5位はインデックスファンド)。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週10月24日から10月28日までは、1・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位はグローバル株ファンド、3・5位は日本株ファンド(2・5位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の9月26日から9月30日までは、9月の月間と同じで1位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・5位はグローバル株ファンド、3・4位は日本株ファンド(2・4・5位はインデックスファンド)だった。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週10月24日から10月28日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・5位はグローバル株ファンド、2・3位は日本株ファンド、4位はアセットアロケーションファンドとなっている(1・2・5位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の9月26日から9月30日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1位はグローバル株ファンド、2・4位は日本株ファンド、3位はアセットアロケーションファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドだった(1・2位はインデックスファンド)。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、10月24日から10月28日までのNISA投資信託・買付金額の1・3・4位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、5位は不動産セクター株(REIT)ファンド(1・2位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の9月26日から9月30日までのNISA投資信託・買付金額の1位はグローバル株ファンド、2・4位は不動産セクター株(REIT)ファンド、3・5位は日本株ファンド(1・3位はインデックスファンド)だった。

<ジュニア NISA 投資信託>

○SBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週10月24日から10月28日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1・4・5位はグローバル株ファンド、2位はアセットアロケーションファンド、3位は不動産セクター株(REIT)ファンドとなっている(1・2・5位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の9月26日から9月30日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1・5位はグローバル株ファンド、2位はアセットアロケーションファンド、3・4位は不動産セクター株(REIT)ファンドだった(1・2・4・5位はインデックスファンド)。

<NISA 積立～2016年11月4日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2016年10月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1・2位は日本株ファンド、3・4位はグローバル株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている(*7～9月と順位は同じ。1・3・4位はインデックスファンド)。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、最新週10月24日から10月28日までのNISA口座では、1・2位はグローバル株ファンド、3・4位は日本株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている(*1～3位はインデックスファンド)。

ネット証券では、10月はグローバル株や日本株の人気が見られ、不動産セクター株(REIT)人気は前月までに比べて後退、インデックスファンドの人気が続いている様である。

以上、2016年10月にNISAで投資された先を、既存投資家、新規投資家、ネット証券などの順で見えてきた。既存投資家の人気はREIT、NISA向けファンドとネット証券ではグローバル株やアロケーションファンドも人気だった。ネット証券の積立では日本株やグローバル株が人気だった。もちろん、今後を示すものではないが、こうした情報が(成人)NISAやジュニアNISA、NISAで積立、そしてDCを検討する個人投資家の参考になれば幸いである。そしてDCがNISAと使い分けられ、補完し合いながら国民の資産形成促進へつながる事が強く期待される(2016年5月6日付日本版ISAの道 その143参照～URLは後述[参考ホームページ])。

以 上

[参考ホームページ]

2016年11月1日付国民年金基金連合会「平成29年1月以降新たに加入対象となる方の事前受付開始のお知らせ」…「<http://www.npfa.or.jp/401K/news/pdf/281101%E4%BA%8B%E5%89%8D%E5%8F%97%E4%BB%98%E3%81%AE%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B.pdf>」、
2016年11月3日付日経電子版「マネー研究所 個人型DC『イデコ』 指南本の著者が本音トーク」…
「<http://style.nikkei.com/article/DGXMZO08812340W6A021C1000000?channel=DF131020161198>」、

2013年6月10日付日本版ISAの道 その15「日本版ISAと日本版401kと日本版IRAの使い分け～英国ISAと米国IRA(トラディショナルIRAとロスIRA)の融合～」…「<https://www.am.mufg.jp/text/130610.pdf>」
2016年11月1日(火)付国民年金基金連合会「愛称iDeCoのロゴが決定しました」…「<http://www.npfa.or.jp/401K/news/>」
2016年8月29日付日本版ISAの道 その154「1月からすべての国民が個人型DCに加入可!米国のIRA同様、移換/ロールオーバーによって他の年金積立金の受け皿としての拡大も期待!!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_160829.pdf」
2015年9月24日付日本経済新聞朝刊「マイナス金利時代の投資術 低変動率商品で資産防衛」…「<http://www.nikkei.com/article/DGXMZO07546520T20C16A9000000/>」
2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」
SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」
楽天証券のNISAランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking」
マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」
2016年5月6日付日本版ISAの道 その143「DC改正法案成立!日本の個人型DCが米国IRAと同じなら5年で(2021年に)約10兆円!?ただ、米国のDC、そしてDC経由での投信保有の大きな転機が来ている可能性」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_160606.pdf」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。